

# 冬春きゅうり

## 1 現状及び課題

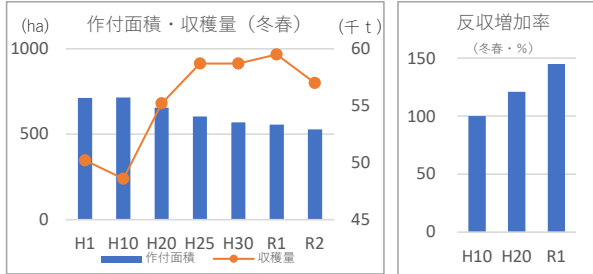
項目	H22	R2	R2/H22
栽培面積	641ha	528ha	82%
生産量	54,500t	57,000t	96%
全国順位	1位	1位	→
全国シェア	18%	20%	111%
産出額	180億円	190億円	105%

※ 出典：野菜生産出荷統計、生産農業所得統計（農水省）

項目	H22	R2	R2/H22
栽培戸数	2,494戸	2,365戸	96%
平均面積	23a	23a	100%

※ 出典：市町村集計（宮崎県調べ）

- **平均単収**（※ 主要産地 J A 部会 R2 実績）
  - ① 促成つる下ろし：18.2t
  - ② 促成摘心：10.1t
  - ③ 早熟：9.1t
- **平均年齢**：58歳（※ 主要産地 J A 部会）
- **環境制御技術導入率**（※ 宮崎県調べ）
  - ① 炭酸ガス発生装置：約30%
  - ② 環境測定装置：約15%
- **ハウス経過年数**（※ NOSAI 連ハウス引受実績）
  - 15年以上：7割



※ 出典：野菜生産出荷統計（農水省）

### 【解決すべき事項】

1. 担い手・後継者の減少
2. 栽培面積の減少
3. 生産基盤の老朽化
4. 労働力不足・時期的偏り
5. 生産コスト上昇・経営の不安定
6. 2050年、化石燃料を使用しない施設園芸への移行



## 2 産地の目指す姿（目標：令和7年度）

### 収量 25 t / 10a を目指します！（10～6月収穫）

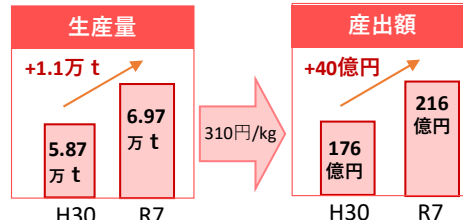
- ・収量 35 t / 10a の生産者がいます
- ・複合環境制御装置の導入が進んでいます
- ・環境制御技術ノウハウを県内で共有しています
- ・高軒高ハウスで周年栽培を行う生産者がいます

### 効率的な経営・産地をつくります！

- ・30a で農業所得900万円以上の生産者が身近にいます
- ・農家・地域ごとのビジョンが明確です
- ・担い手を中心にハウスを団地化しています

### 持続可能な産地を目指します！

- ・産地の維持に必要な新規就農者を確保・育成しています
- ・新たな取組に果敢にチャレンジする生産者が増加しています。
- ・環境負荷軽減に取り組んでいます



- **目標収量 35 t / 10a (トップランナー)**
  - ・粗収益：3,297万円
  - ・経営費：2,388万円
  - ・農業所得：909万円（経営面積30a）
- **目標収量 25 t / 10a**
  - ・粗収益：2,355万円
  - ・経営費：1,814万円
  - ・農業所得：541万円（経営面積30a）

## 3 生産者が取り組むこと

1. **新規就農者（仲間）を育てます**
  - 就農希望者の研修受入
  - 部会勉強会・各種研修会への誘導
- 2-1. **経営戦略を考えます**
  - 経営状況、労働力に応じた規模拡大
  - 企業型経営（周年雇用）への発展
- 2-2. **反収を増加します**
  - スマート農業技術の導入
    - ・環境制御技術
    - ・養液土耕栽培、養液栽培
  - 宮崎方式 ICM の実践
    - ・ MYSV、つる枯病などの対策強化
    - ・耐病性品種の検討
3. **生産基盤を強化します**
  - 新たなハウスの導入
  - ハウスの補強による長寿命化
  - 集出荷場の集約・機能強化
4. **労働環境を改善します**
  - 省力化技術の導入による作業軽減化
  - 作業環境の改善（GAPの実践）
5. **販売力強化・経営安定に取り組めます**
  - 土壌診断、物理的防除等による肥料・農薬使用量の削減
  - 適正温度管理によるエネルギーの削減
  - 品質の向上による販売力の強化
  - 出荷予測等による有利販売の展開
  - 出荷資材の統一化の検討
  - 価格安定制度・収入保険制度の活用
  - 施設園芸セーフティネット構築事業の活用
6. **化石燃料の使用量削減に取り組めます**
  - 省エネルギー対策の徹底
  - ヒートポンプ等の活用によるA重油使用量削減
  - 開発される新たな技術の活用・導入



「経営戦略」で目標を設定。検証・改善で経営力を強化

## 4 関係者が支援すること

1. **新規就農者を確保し、育成します**
  - 県内外の就農相談会実施
  - トレーニングセンターの充実・拡大
  - 独立自営に向けた研修後の出口対策強化
    - ・ 就農計画、農地・施設、資金、技術指導等
2. **生産者の経営戦略・反収増加の取組を支援します**
  - 経営戦略・ビジョンに基づく支援の強化
    - ・ 意欲ある担い手に対する支援の重点化
  - 反収増加の取組支援
    - ・ スマート農業技術の普及・定着の推進と技術指導者の育成
  - 高収益で省力的な栽培体系の確立
    - ・ 高軒高ハウスによる養液栽培技術
    - ・ 雇用型経営のための省力的栽培方式
  - 産地分析・P D C A の実践啓発
3. **生産基盤を強化します**
  - 経営戦略に応じた施設等整備の支援
    - ・ 災害に強いハウスの整備支援
    - ・ 養液土耕栽培、養液栽培の導入推進
  - 団地化・集約化のビジョン策定
  - ハウスの低コスト化の実現
4. **労働力の確保を支援します**
  - 援農システムなど労働力確保支援体制の強化
    - ・ 農福連携、地域内労働者、外国人労働者等
  - 地域の実情に応じた分業体制の検討
    - ・ ビニール展張、防除・収穫、集荷作業等
5. **販売力を強化します**
  - みやざきブランド商品力の強化・生産拡大
  - 等階級や出荷資材の規格統合・簡素化
  - 共同輸送やルートの最適化による物流効率化
  - 集出荷場の集約・機能強化
  - 販売先・消費者に対する再生産価格の理解醸成
6. **化石燃料の使用量削減を促進します**
  - 新たな省エネ技術の検証と導入推進
  - ヒートポンプの導入支援



経営戦略と産地・地域ビジョンの連動、支援の重点化で産地力を強化